

第4学年 音楽科学習指導案

指導者 庭野 恵

- I 題材名 日本の音楽に親しもう
教材名 こきりこ

II 題材の指導構想

1 題材について

- 本題材は、拍や旋律、音色等の特徴を感じ取りながら民謡を鑑賞したり歌ったりし、古くから伝わる日本の音楽に親しむ題材である。鑑賞を通して聴き取ったことや感じ取ったことを発表し合ったり、表現に生かしたりすることで、日本の音楽や郷土に伝わる音楽のよさや面白さを発見し見直す学習になると考える。3年生では、音色やリズム、速度に着目して、「神田囃子」や「花輪ばやし」、「小倉祇園太鼓」などお囃子を鑑賞する学習をしている。5年生で学習する箏と尺八の「春の海」や6年生で学習する雅楽「越天楽今様」につながっていく。また、5音を使ってお囃子の旋律づくりをし、日本音楽の特徴の一つを感じ取る学習をする。3年生での3音を使って旋律づくりをした経験を生かし、5年生で行う日本の音階を使った旋律づくりへとつながる学習となる。
- 子どもたちはこれまで、拍子については、2拍子、3拍子、4拍子、6拍子の楽曲に触れ、それぞれの拍子の特徴やそれを生かした表現の仕方を学習してきた。「拍のない音楽」については、本題材で初めて学習する。旋律については、旋律線をなぞったり空描きしたりしながら、旋律の動きを生かした歌い方や演奏の仕方を工夫する学習を積み重ねている。音色については、聴き取った音の特徴を言葉で表し、共有することで学習してきた。音色の感じをとらえて聴いたり、音色から様子を想像したりして学習してきた。また、これまでの学習では頭声発声が多いが、地声で発声するのは本題材が初めてである。日本の楽器については、3年生で和太鼓や小太鼓に触れる学習をしている。さんさ踊りや八幡宮のお祭り等に参加し、日本の楽器に触れる経験をしている子どももいるが、生活経験に差がある。研究の手立てである「音や音楽のよさを共有する音楽活動」や「生活や社会と結び付ける場面の工夫」などを講じることで、思いや意図をもって音楽とかかわろうとすることができると考える。
- 本題材では、民謡の特徴である、独特な発声や拍の特徴、5音音階に着目し、日本の音楽を特徴付ける要素の一つとして気付き、それを味わって聴いたり歌ったりする学習をする。楽曲を聴き、どうして日本的な音楽に感じるのか、その根拠を明らかにするように学習を展開していきたい。
「ソーラン節」「南部牛追い歌」の学習では、鑑賞を通して拍にのったりリズムと拍のない自由なリズムの違いを感じ取るようにする。聴き取ったり感じ取ったりしたことを話し合う中で、民謡の歌い方や日本の楽器など、日本の音楽の特徴に気付かせていく。「こきりこ」の学習では、民謡の発声に気を付けて歌ったり、旋律に着目して聴いたりすることで、民謡の楽しさを味わうことができるようにする。「こきりこ」が5音音階であることに気付かせ、「さんさ踊り」の音楽や「八幡宮のお祭り」の音頭上げと比べることで、自分たちの郷土の音楽への親しみをもつ機会にしていきたい。
お囃子の旋律づくりの学習では、4分の4拍子で2小節の旋律をつくり、日本の音階を味わったり、楽しんで行うことができるようにしていく。

2 復興教育（3つの教育的価値）との関連

- いきる「③価値ある自分」とのかかわり
自分と友達の聴き取ったことや感じ取ったことを交流し理解する場面において、聴き取ったことや感じ取ったことを互いに理解しようとしたり認め合ったりすることで、自分の楽曲への思いや意図を価値あるものとして受け入れられていると感じ、自己有用感・自己存在感を感じるとともに自己肯定感を高める。
- かかわる「⑫自分と地域社会」とのかかわり
日本の音楽に触れることで、自分たちの郷土の音楽にも目を向け、郷土の伝統行事やそれを大切に守ってきた郷土の人々への誇りや親しみをもつ。

Ⅲ 題材の指導計画

1 題材の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
① 日本の音楽の特徴を聴き取ったり感じ取ったりし、それぞれの楽曲の特徴やよさに気付いて聴く。 ② 日本の音楽の特徴を感じ取って、曲想にふさわしい声で歌う。 ③ 音やリズムの組み合わせを工夫し、旋律をつくる。	④ 音色やリズムを聴き取り、日本の音楽の特徴を感じ取り、それに合う歌い方を工夫する。 ⑤ 5音階が生み出すよさや面白さを感じ取って、音やリズムの組み合わせを工夫して旋律づくりをする。	⑥ 郷土の音楽に興味・関心を持ち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に取り組む。 ⑦ 郷土の音楽やその曲想に興味・関心を持ち、思いや意図をもって歌う。 ⑧ 5音階に興味・関心を持ち、音やリズムを組み合わせることで旋律をつくる。

2 学びのつながり

- 日本の音楽について、3年生では「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」を鑑賞し、それぞれのお囃子の雰囲気や特徴を感じ取る学習をしてきている。楽器の音色やリズム、速度に着目し、それぞれのお囃子の特徴や共通点、相違点を聴き比べる学習を経験している。4年生では、日本古謡「さくらさくら」について、日本の音楽であることに気づき、曲想を感じ取りながら様子を想像して歌う学習をしてきた。
- 本題材では、日本の音楽に親しむことができるよう、民謡を鑑賞したり歌ったりする学習をする。民謡の歌い方や拍、旋律に着目し、楽曲のよさや面白さを知ることができる。また、民謡の学習で気付いた5音階を使ってお囃子の旋律づくりをする。
- 本題材で身に付けた力は、5年生の「春の海」、6年生の「越天楽今様」など日本の音楽を聴く学習につながる。また、さんさ踊りや八幡宮のお祭りの際に、音楽に注目するなど、自分たちの生活や社会とつながるものになると考える。自分たちの住む地域にも様々な音楽があり、生活に密着したものであることを知る機会にしていきたい。そして、今後様々な楽曲を聴く際、音階や歌い方に着目するなど、聴き取る要素が増えると考えられる。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日本の民謡の歌声や拍、旋律などの特徴や違いを聴き取ったり感じ取ったりし、それぞれの楽曲の特徴やよさに気付いて聴いている。 ② 日本の音楽の特徴を感じ取って、曲想にふさわしい声で歌っている。 ③ 音やリズムの組み合わせを工夫し、まとまりのある旋律をつくっている。	④ 声や楽器の音色やリズムを聴き取り、日本の音楽の旋律の特徴を感じ取り、それに合う歌い方を工夫している。 ⑤ 5音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、リズムや音の組み合わせを工夫し、旋律づくりに思いや意図をもっている。	⑥ 郷土の音楽に興味・関心を持ち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に取り組もうとしている。 ⑦ 郷土の音楽やその曲想に興味・関心を持ち、それにふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 ⑧ 5音階に興味・関心を持ち、音やリズムを組み合わせることで旋律をつくる学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材の指導構想と評価の計画

時	学習内容 働かせる見方・考え方	研究にかかわる手立て	評価規準 及び評価方法
1	「ソーラン節」「南部牛追い歌」 ・ 「ソーラン節」「南部牛追い歌」を民謡の歌い方や拍、旋律に着目して鑑賞する。 ・ 拍にのったリズムと拍のないリズムの違いを感じ取る。	【手立て2】③比較聴取 「ソーラン節」と「南部牛追い歌」を聴き比べ、共通点から歌い方や楽器など民謡の特徴をつかみ、相違点から拍にのったリズムと拍のないリズムに気付かせる。 【手立て2】①共有するための方途 拍に着目して、手拍子を打ちながら2曲を聴き比べる。	【評価⑥】 【評価①】 発言 学習シート 活動の様子
2	「こきりこ」 ・ 曲想をつかみ、旋律の特徴を感じ取って歌う。 ・ 主な旋律と副次的な旋律を重ねて歌う。	【手立て1】②既習曲との関連や題材を貫く 共通事項の明確化・焦点化 前時の学びから、「こきりこ」を民謡の歌い方や拍、旋律、楽器に着目して聴く。	【評価⑦】 【評価②】 発言 歌声
3 本時	「こきりこ」 ・ 音色や歌い方に気を付けて歌う。 ・ 5音音階に気付いて歌う。 ・ 「さんさ踊り」の音楽や「八幡宮のお祭り」の音頭上げを聴いて、生活の中尾音楽と結び付ける。	【手立て2】③比較聴取 民謡の歌い方の特徴である「地声」を、地声ではない声で歌ってみる。また、5音音階の旋律を、7音の旋律にした演奏を聴かせる。 【手立て2】④学習形態の工夫 一人で歌ったり、グループで聴き合ったりし、民謡の特徴を生かした歌い方を確かめる。 【手立て4】生活や社会と結び付ける場面の工夫 地元のお祭りである「さんさ踊り」の音楽や「八幡宮のお祭り」の音頭上げを取り上げる。	【評価④】 発言 学習シート 活動の様子
4	「こきりこ」 ・ 歌と楽器を合わせて演奏する。	【手立て3】音楽的価値に結び付ける振り返りの活動 楽曲の好きなところや、「こきりこ」などの民謡が自分にとってどんなものになったのか、などを記述して振り返る。	【評価⑦】 発言 活動の様子 振り返り
5 6	5つの音でお囃子の旋律づくり ・ お囃子のリズムをつくる。 ・ つくったリズムと5音を使って、お囃子の旋律をつくる。	【手立て2】④学習形態の工夫 自分がつくったリズムや選んだ音をペアやグループで相談したり修正したりして旋律をつくる。	【評価⑧】 【評価⑤】 【評価③】 学習シート 活動の様子

IV 本時の指導計画

1 目標

- 日本の音楽の特徴の一つである発声や5音音階などの音色や旋律の特徴に気付いて歌ったり、郷土の音楽と比べたりして、そのよさや特徴を感じ取る。

2 評価規準

- ・ 声や楽器の音色やリズムを聴き取り、日本の音楽の旋律の特徴を感じ取り、それに合う歌い方を工夫している。【思考・判断・表現】

<努力を要する状況の子どもへの手立て>

- ・ グループの友達と一緒に歌ったり、楽譜を見たりして、5音音階や民謡の特徴を感じ取ることができるようにする。

3 展開

段階	学習過程	時間	学習活動	期待する子どもの姿	研究にかかわる手立て	留意点 評価
導入	学習課題の把握	10	1 学習内容を把握する。 2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 「こきりこ」は日本らしい曲だった。 楽器も日本らしいものだった。 日本らしいと感じるのはなぜだろう。 楽器の他に何か秘密はあるのかな。 		
なぜ日本らしく感じられるのか考え、聴いたり歌ったりしよう。						
展開	学習課題の解決	25	3 「こきりこ」を歌う。 4 民謡「こきりこ」の特徴をとらえる。 (1) 予想を立てる。 (2) 特徴について考える。 5 「こきりこ」の特徴を生かして歌う。 6 地元のお祭りの音楽と比べる。	<ul style="list-style-type: none"> 歌い方や声の出し方かな。(音色) 使われている音が日本らしい。(旋律) 地声で歌わないと、民謡らしくない。 こぶしをまわすと、民謡らしくなる。 5つの音だけの旋律だ。 7つの音だと、日本らしくない感じがする。 (地声でこぶしを回して歌う。) (こぶしを回す場所や声の出し方をお互いにアドバイスし合う。) さんさ踊りの音楽も日本らしいと感じるには、音階に秘密があったんだ。 音頭上げは、地声でこぶしを回して歌っていた。 	【手立て2】③比較聴取 民謡の歌い方の特徴である「地声」を、地声ではない声で歌ってみる。また、5音音階の旋律を、7音の旋律にした演奏を聴かせる。 【手立て2】④学習形態の工夫 一人で歌ったり、グループで聴き合ったりし、民謡の特徴を生かした歌い方を確かめる。 【手立て4】生活や社会と結び付ける場面の工夫 地元のお祭りである「さんさ踊り」の音楽や「八幡宮のお祭り」の音頭上げを取り上げる。	【評価④】 発言 学習シート 活動の様子
終末	本時のまとめ	10	7 振り返りをする。 8 次時の学習を見通す。	<ul style="list-style-type: none"> 地声でこぶしをまわして歌うと、民謡らしくなることがわかった。 日本の民謡やさんさ踊りの音楽なども5音音階だとわかった。 〇〇さんの歌い方が民謡らしくてよかった。 次は、楽器を入れて演奏してみたい。 		